

越前町議会・令和8年3月定例会一般質問【木村 繁議員】

(令和8年3月5日 午後1時13分 開始)

○14番(木村 繁君) イタリア、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック、本名より「りくりゅうペア」で世界に通じる、フリーでの大逆転金メダルで幕を閉じました。

また、明日からは、ワールドベースボールクラシック、WBCが開催されます。大谷選手をはじめ、メジャー組、メジャー予備軍の阪神タイガース、サトテル、森下、両選手。私個人的には、ソフトバンク内外野守備のユーティリティープレーヤー牧原選手、そして令和の盗塁王、周東選手に注目をしたいというふうに思います。議会中ですけれども、ぜひ、我々も侍ジャパンの応援をしていきたいというふうに思います。

議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

まず最初に、全国の自治体では日常生活で聞こえに不安を感じている皆さんが安心して来庁できる環境の整備や高齢化に伴う窓口対応の円滑化を目的とした軟骨伝導イヤホン、軟骨伝導式集音器の導入が広がりを見せているそうであります。

本県においては、福井市が2025年1月より地域包括ケア推進課窓口及び福祉事務所に試験導入、越前市では福祉部各課の窓口を設置、また永平寺町では役場窓口を設置をされ、窓口職員の声が聞き取りにくい場合、希望すれば貸出しや利用が可能となっているそうであります。

このイヤホンのメリットとしては、耳の穴をふさがず、軟骨を振動させて音を伝えるため、長時間利用でも疲れにくく、自然に聞こえ、飛沫防止パネルやマスク越しでも声が聞き取りやすい点であります。また、周囲に会話を聞かれにくいクリアな会話、老眼鏡のように気軽に利用できる簡単操作など個人情報保護の観点からも窓口の会話に有効です。

そこで、本町における軟骨伝導イヤホンの導入に対する考え方や今後の方向性について町長の所見をお伺いをいたします。

次に、町内の国県町道に設置しているマンホール周辺の路面の補修についてお聞きをいたします。

先日、県道沿いに住んでいる住民の方から、大型トラック、あるいはトレーラーが通るたびに大きな振動を感じ、生活に支障を来しているとの相談を受けました。町内の道路には、下水道整備による数多くのマンホールが設置されており、年数が経過するとともにマンホール周辺の段差など、道路にひずみが生じ、周辺住民や交通に支障を来しているケースがあるかと思えます。

そこで、町が管理をしているマンホールの数とマンホール周辺の段差解消などの補修について、どのような方法で点検しているのか、お聞かせいただきたいと思えます。また、補修、整備に当たっては、どのような方針に基づいて行っているのか、国県道を含め、担当理事の所見をお伺いをいたします。

最後に、町内の小中学生の自転車ヘルメット着用についてお聞きをします。

ある塾を運営するネットワーク調査によりますと、自転車利用時のヘルメット着用状況は、小学1年生から高校3年生の子どもを持つ保護者によると、小学生では常に着用が50.6%、全く着用していないは11.6%、高校生では、常に着用が19.1%、ときどき着用を合わせても3割程度にとどまったそうであり

ます。自転車利用時のヘルメット着用は、2023年から努力義務化されており、本町における小中学生のヘルメット着用率は非常に高いと推察をされますが、その実態と身を守るという観点から、今後の在り方や方針について、担当理事の所見をお伺いをいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、木村議員のご質問にお答えします。

本町の窓口においては、コロナ禍で設置した飛沫防止パネル、また常態化したマスクの着用など、聞こえを阻害する要素がいくつかありますが、筆談や耳元でお話をするなどの配慮を行っていることで、現在のところ意思疎通に支障をきたしている例は確認されておられません。

ほかにも、電話対応において、健康保険課には相手方にとって聞こえやすくなる装置を1台導入しております。また、窓口ではスピーカーマイクを使用できる体制を整えるなど、万全までには至らないものの、聞こえに対する配慮は積極的に取り組んでいるとごさいます。

一方、耳元で大きな声でお話することは、プライバシーや感染症の観点から懸念があるものと感じているところでごさいます。議員ご提案の軟骨伝導イヤホンは、音声クリアに聞こえるようになることで、この懸念も解消され、円滑な対応が期待できるものと認識しております。県内では、試験導入を含め、9市町に導入されており、スムーズな窓口対応等が図られていると聞いております。

本町においても、設置場所や運用方法などを整理した上で、運用試験を行いながら、積極的な導入を進めてまいります。

○議長（藤野菊信君） 建設理事。

○建設理事（原 雅哉君） 私からは、マンホール周辺の段差解消、補修に関するご質問にお答えをいたします。

現在、町が管理するマンホールは1万610か所あり、そのほとんどが国県道及び町道に設置してあります。マンホールの点検に関しまして、特に段差解消につきましては、道路管理者による日常パトロールでの指摘や区長をはじめ、住民からの連絡等により、不良箇所を把握し、随時対応しているほか、令和2年からは国の補助を受け、年間約100か所の点検を実施し、その結果から重点箇所を優先的に補修しております。

なお、補修整備に当たり、段差の基準などを定めた道路管理上の方針等はありませんが、常に道路管理者である県や町担当課と上下水道課が連携を密にしながら、パトロールによる指摘箇所はもちろん、道路改良や舗装補修に併せたマンホールの高さ調整を行っております。

道路上のマンホールの段差は、安全な交通の障害となることはもちろん、騒音など、周辺住民への影響もあることから、常に状況把握に努め、安全対策を徹底してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、小中学生の自転車ヘルメット着用についてのご質問にお答えをいたします。

自転車乗用者のヘルメット着用率につきましては、警察庁が全都道府県でヘルメット着用率を調査した結果、福井県は27.1%、全国平均では21.2%で、福井県は全国平均を上回りましたが、依然として低水準にとどまっております。自転車は、多くの小中学生の移動手段である一方、運転中に交通事故の被害者や

加害者になる可能性も生じます。

また、相次ぐ自転車事故を背景として、令和5年4月より改正道路交通法が施行され、議員ご指摘のとおり、自転車乗用時のヘルメット着用が努力義務となりました。ヘルメット着用の実態につきましては、鯖江警察署が実施する小・中学校の交通安全教室において、座学や実技を通じ、歩行時と自転車運転時、双方の運転マナーを指導し、不適切な自転車運転の危険性について考える機会を設けております。また、町内の小学校において、町交通指導委員会や鯖江警察署と連携した自転車教室を実施し、適切な交通マナーを身につけることや自転車の運転技術向上を目指した指導を行っております。

さらに本町では、以前より自転車通学をする中学生の自転車乗用中の交通事故による被害軽減のため、自転車通学をする新1年生のヘルメット購入費に対する補助金を交付しており、現在、購入者1人当たり500円を助成しております。

今後の在り方、方針につきましては、引き続き、交通安全教室において、自転車乗用中の事故におけるヘルメット着用時と非着用時の違いを説明することにより、ヘルメット着用の必要性、重要性を認識してもらうよう、努めてまいります。

町といたしましては、町民の安全向上という観点から、ヘルメット購入補助金については、自転車通学される中学生に限らず、自転車を利用される町民を対象とした補助拡充に向け、検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 木村 繁君。

○14番（木村 繁君） いずれも前向きなご答弁をいただきました。感謝申し上げます。

最初の質問の伝導イヤホンにつきましては、3日の火曜日の日に、ちょっと福井へ行く用事がありまして、その用事が済んだ後、永平寺町の役場に出向きまして、お話を聞いてきました。このイヤホンについて。対応していただいたのが、永平寺町役場の福祉保健課の女子職員の方でした。

お話を聞きますと、この伝導イヤホン、1機3万9,600円ということをお聞きをしました。永平寺町のほうでは、昨年のおそらく10月にこのイヤホンを導入したというお答えでございましたので、永平寺町の役場では、この福祉保健課に1台、そして住民課に1台、2台のイヤホンを導入されたそうであります。

お話の中で、いわゆる住民の方の生の声はどんなんですかとお聞きとしたところ、日によっては1人も利用される方がおらない日もありますし、利用されるときには日に3人から4人ということで、その住民の方の声はどうですかとお聞きしたときには、結論から言いますと、非常に聞こえの悪い方については喜んでいということが結論だというふうに思いますが、住民の方と役場窓口の職員さんの会話が非常にスムーズに行える、重宝がられている。そしてもう一つは、住民の方、職員さんとの意思疎通がスムーズに図られているということで喜ばれているんですというお答えでしたので、先ほど町長のご答弁の中にも試験を重ねて早急に積極的な導入を進めるというご答弁でございましたので、ぜひとも積極的な導入に向けてお願いを申し上げたいというふうに思います。

それから、2番目の質問については、マンホールの段差、理事のご答弁の中には町内で1万610か所、これだけの数のマンホールがあるということで、非常に大変だなというふうには思いますけれども、その中で、こういった住民の声、大型トレーラー等が通ると家がやや振動して生活に支障を来しているという声がありましたので、ちょっと質問をさせていただいたんですけれども、どうもその方によると、役場さんをお願いをして、補修は確かに、私もお願いをして、補修は

確かにしていただいて、ありがたかったというお声でしたんですけれども、その補修をするまでのスパンがやや長かった。今日言って明日というわけにはいかないとはいいますけれども、非常にスパンとしては長期にわたってやっとな段差を解消していただいたという声もありましたので、ぜひとも、先ほど理事ご答弁にあつたとおり、区長さんなり、あるいは住民であつたり、そういう声があつた場合には、ぜひともスピーディーに迅速に対応をお願いしていきたいというふうに、これは重ねて要望をさせていただきたいと思います。

最後の自転車のヘルメット、たかがヘルメットですけれども、されどヘルメットです。住民の安全安心というのは、行政としての一丁目一番地、最大の仕事だというふうに思いますので、今後は、ご答弁にもありましたが、自転車を利用される町民を対象とした補助拡充に向け検討してまいりたいというご答弁でございましたので、当然、検討するという事ですから、これもぜひ前向きに検討をして、今後の行政を進めていっていただきたいというふうに思います。

ご答弁は結構でございますので、以上で私の一般質問を終わります。

(午後1時35分 終了)